

【2018年度 シラバス】

時間割コード		開講区分	春・夏学期 (火曜6・7限など)
ナンバリングコード※	3B1510(知のジムナスティックス科目)	曜日・時間	水6、他
開講科目名	協働術E (地域再生プロジェクト)	単位数	2
担当教員	辻寛、森栗茂一、三好庸隆、天米一志	年次	全研究科、学部3年以上の全学生、社会人(若干名))
講義題目	郊外再生プロジェクト		
開講言語	日本語		
授業の目的	<p>経済成長・人口増を背景とした宅地開発、交通政策は、私たちに快適で便利な暮らしをもたらしたが、安定成長、少子高齢化に流れが変わった今日、ひずみや問題が浮き彫りになってきている。</p> <p>この授業では、能勢電鉄沿線(1市3町)をフィールドとして、地域コミュニティの抱える問題や課題を理解した上で、まち・みちづくりをどう進めていくのか、またそうした地域の課題に地域の人びとが主体的にかかわっていくために何が必要なのかについて考え、その対策を沿線住民や、事業者に提案することを目的とする。</p> <p>具体的には、受講生それぞれの背景(学部、出身地、経験等)を踏まえた上でこの地域の課題を見だし、グループワークにより、その課題に向けての提案を関係者にプレゼンすることを考えている。</p>		
学習目標	<p>①地域のまちづくり・みちづくりに関する課題や問題について自分の意見を持ち、論じることができる。</p> <p>②意見が異なる人とも建設的な議論を構築でき、主張の共通点や相違点を分析し、整理して表現することができる。</p> <p>③地域住民や民間企業の役員・社員に向けて発表することを通して、プレゼン手法や能力を鍛えることができる。</p>		
履修条件・受講条件 ※	休日も含めた現地調査に参加できること。		
授業計画	<p>第1回：4/11 6限 オリエンテーション</p> <p>第2回：4/18 6限 能勢電鉄および関係プロジェクトについて</p> <p>第3回：4/18 7限 能勢電鉄および関係プロジェクトについて</p> <p>第4回：4/25 6限 プロジェクト実現のための様々な考え方と方法</p> <p>第5回：5/9 6限 現地学習について</p> <p>第6回：5/12(土) 現地学習と課題発見</p>		

	第7回：5/12（土） 現地学習と課題発見
	第8回：5/16 6限 現地学習振り返り
	第9回：5/16 7限 フィールドの課題や問題について（現地学習と課題発見）
	第10回：5/30 6限 チームワーク
	第11回：6/6 6限 中間発表
	第12回：6/13 6限 チームワーク
	第13回：6/20 6限 チームワーク
	第14回：6/27 6限 チームワーク
	第15回：6/30 or 7/8（土）能勢電鉄、地域住民にむけた報告会
授業外における学習	<p>授業外における学習：5/12（土）は、能勢電鉄沿線において現地学習を行う。</p> <p>受講期間中、指定された日以外でも各自の課題・関心に従って積極的に現地に足を運んでほしい。受講生からの要請に応じて関係者へのヒヤリング等を教員がアレンジすることも考えている。また、学内での学生向けのプレゼンではなく、地域住民や事業者、地域行政機関に向けたプレゼンとなるため、それなりの完成度を求めるので、授業外にも作業する必要があると思われる。</p>
教科書・参考資料 ※	<p>森栗茂一編著：「コミュニティ交通のつくりかた」（学芸出版社 2013）</p> <p>土井勉他著：「まちづくりDIY」（学芸出版社 2014）</p> <p>山崎亮著：「コミュニティデザインの時代：自分たちで「まち」をつくる」（中公新書 2012）</p> <p>その他、適時紹介する</p>
参考文献 ※	<p>①森栗茂一編著『コミュニティ交通のつくりかた』（学芸出版社 2013）</p> <p>②土井勉他著：「まちづくりDIY」（学芸出版社 2014）</p> <p>③山崎亮著：「コミュニティデザインの時代：自分たちで「まち」をつくる」</p> <p>④その他、適時紹介する。</p>
成績評価	<p>講義への参加 50%（発言や取り組み、学外活動への積極性など）</p> <p>報告会でのプレゼン内容 50%（内容の説得力、参加者の反応）</p>
キーワード ※	まち・みちづくり 郊外鉄道 オールドニュータウン